

研究タイトル:

古インドアリア語文献群の歴史言語学的研究



氏名:	笠松 直 / KASAMATSU Sunao	E-mail:	skasamatsu@sendai-nct.ac.jp
職名:	准教授	学位:	博士(文学)
所属学会・協会:	印度学仏教学会, 日本仏教学会, 日本歴史言語学会, 仏教思想学会, インド学宗教学会		
研究分野:	インド哲学, 仏教哲学, 比較言語学		
キーワード:	Veda, Sanskrit, Pāli, Buddhist Hybrid Sanskrit, ヴェーダ学, 南方仏教, 大乘仏教, 梵文学		
技術相談 提供可能技術:	<ul style="list-style-type: none"> 古インドアリア語・中期インドアリア語の歴史言語的分析 南方仏教および大乘仏教經典の研究 上掲領域に関わる思想・文化・儀礼研究 		

研究内容: ヴェーダ文献やパーリ語・仏教混交梵語文献等を対象とした言語・思想・文化研究

■ヴェーダ文献研究

仏教は古代インドで発生した。仏教以前の思想は、いわゆるヴェーダ文献に保存されている。ヴェーダ文献の相当部分は、儀礼を巡って展開している。私はそのうち、「祭火の礼拝 *Agniyupasthān*」儀礼をとその成立過程を検討した。この儀礼は、「祭火への献供 *Agnihotra*」(の、古くは夜の)献供に際して行なわれる儀礼である。この「祭火」儀礼の要素は、インド・イラン共通のもので、この研究は両地域の宗教文化の理解のために重要である一方、その後展開した文化—たとえば、我が国にも伝わる護摩儀礼—の理解のためにも有用である。

ヴェーダ文献群の研究は、それ自体が独立した研究課題であるが、以下に述べる研究課題のための基礎ともなる。

■南方仏教および南方仏教聖典語・パーリ語研究

スリランカ・東南アジアにひろまった仏教は、日本を含む東アジアに伝わった大乘(北方)仏教と様相を異にする上座部仏教であり、流伝地域によって南方仏教とも呼ばれる。その聖典を伝える言語をパーリ語という。紀元前から紀元4-5世紀頃に主要な文献が成立したが、その後も、あたかも西洋におけるラテン語のように使用され、その文献量は膨大である。

近年、東南アジアは経済発展が著しく、その文化的基層をなす南方仏教の理解は重要性を増している。また、西欧諸国をはじめとして南方仏教が教線を展開しており、世界共通の教養としての位置も獲得しつつある。我が国としては、大乘仏教との対比研究の必要もあり、代々の研究の蓄積がある。

私は英国・パーリ文献協会との連携のうえ、1) 主要パーリ文献の単語索引作成、2) 新資料収集のためのミャンマー現地調査、3) 新資料を元にした新規文献校訂・翻訳研究に従事している。

■大乘仏教經典: 梵文法華經研究

我が国に伝わった大乘仏教經典のうち、『法華經』は最大の文化的影響力をもつものの一つである。これを依用する伝統宗派は数多く、新宗教諸派の多くも追隨する。そのような『法華經』だが、その成立の次第について諸先学の見解は、一定の方向性・合意は認められるものの、議論百出の状態である。その理由の一端は、諸先学が主に漢訳『法華經』を重視すること、先学の多くが熱心な仏教徒であり、その議論が哲学的方面に偏りがちであったことにあるに思われる。私は梵文=サンスクリット本のうち、従来注目のすくなかった中央アジア所伝・カシュガル写本が呈する語形・文法現象が古形を残すことを確認し、かつ章によってやや特徴を異にすることに着目し、文法現象という客観的指標をもって梵文『法華經』の層序関係を解明することを志し、着実に成果を挙げつつある。

参考論文: 笠松直「仏教混交梵語文献におけるアオリストの問題再考—*abhūt / abhūsi / abhūṣit*の歴史素描—」『歴史言語学』2017年12月, 第6号; Sunao KASAMATSU, *asthāt / asthāsīt* in the *Saddharmapuṇḍarīka-sūtra*. 『印度学仏教学研究』第65巻, 2017年3月; 笠松直「*samādāpana*と*samādāpana*—『法華經』カシュガル写本再考に向けて—」『三友健容先生古稀記念論集』2016年3月; 笠松直「ミャンマー所伝南方仏教古写本調査報告—シャン州 Thar-lay 僧院を中心として—」『印度学仏教学研究』第62巻2号, 2014年3月; 笠松直「Skt. *argha-/arghya-*, 仏教語「閼伽」と Lat. *aqua*」『歴史言語学』2014年11月, 第3号

受賞: 第15回インテリジェント・コスモス奨励賞「ICTを応用したミャンマー僧院所伝の仏教古写本とデータベース公開」

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	

哲
学

東
洋
哲
学
・
歴
史
言
語
学